

避難訓練を実施



▲一時避難場所から福良小学校へ移動する児童ら

福良小学校で1月28日、児童と保護者、地域住民で避難訓練を実施しました。訓練は、休日児童らが自宅滞在中に大地震が起こったと想定。自宅近くの一時避難場所に集まり、学校へ避難しました。

実施しました。定期的に訓練を行い、被害を最小限に抑えようと考えています。

この日は学校へ避難した後、人と防災未来センター主任研究員の奥村与志弘さんが講演。「できるだけ高いところへ避難してください」と呼びかけました。その後、児童らは地域ごとに分かれて、防災マップを作りしました。500分の1縮尺のマップを使用し、避難ルートや危険箇所などを色鉛筆やシールなどで示し完成させました。

佐藤凛さん（福良）は「地震が起きて、電柱など倒れたら危ないところをチェックした。狭い道にも気をつけ、落ち着いて安全な場所に避難できるようにしたい」と話していました。



▲防災マップに避難経路を書き込む児童ら

福良小学校

若人の広場の再整備を検討！ 若人の広場の整備等推進懇談会



▲第1回 若人の広場の整備等推進懇談会（1月23日 市役所中央庁舎）

平成22年6月に市が取得した「若人の広場（阿万塩屋）」の再整備に向けて話し合う懇談会が、1月23日と2月14日に開催されました。

この懇談会は、若人の広場の魅力を最大限活用し、その価値を高めるために必要な整備等に関して、幅広い見地から様々な意見をお聴きするために開かれたもので、元南淡

町長をはじめ県や市の関係者らが出席して、広場全体の活用方法のほか老朽化した施設や周辺の環境整備などについて話し合われました。

市では、懇談会での意見を参考にして、支援をいただく兵庫県とも協議しながら具体的な整備方針を決定することとしています。

ふるさと南あわじ応援寄附金

昨年、61人より、ふるさと南あわじ応援寄附金として、824万円の寄附金が寄せられました。寄附者の氏名を公表します。（順不同、敬称略、公表承諾者のみ）

【南あわじ市】 山田哲也、山田一恵、増田博茂、鶴澤友路、松並ひろ子、阪本栄治、素川恒男、中西英夫、野上卓大、鈴木俊示、久米石油株式会社

【洲本市】 武田信一
【神戸市】 北口勝啓、印部文夫

【姫路市】 名定節、馬部清一
【県外】 ▼京都府 片井修▼奈良県 松谷武▼大阪府 豊竹松香 大夫▼神奈川 県 浜崎祐司▼愛知県

ふるさと南あわじ応援寄附金 寄附状況の公表 (1月31日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	413件	57,574,719円
市外(島内)	56件	9,341,000円
市外(島外)	247件	29,654,940円
合計	716件	96,570,659円

詳細は市のホームページに掲載しています



※ご寄附ありがとうございました

ふれあい市長室

あわじ環境未来島特区の指定による地域創成

南あわじ市長 中田勝久

先日、総理大臣官邸において、野田総理から「あわじ環境未来島特区」の指定書の授与があり、井戸知事や淡路島の他市長と共に参加しました。淡路島の新たな取組みへの挑戦として身が引き締まる思いです。

これは、政府の「新成長戦略」の一環として昨年制定された「総合特別区域法」に基づく指定であり、内閣府告示もされた重いものです。

県、淡路島3市共同で申請し、認められたものですが、井戸知事の熱意や優秀な県職員のサポート、淡路島内各種団体組織や連携する大学・関係機関、島内外の企業、学識経験者などのご尽力により獲得できました。

総合特区制度は、国と地域の協働プロジェクトとして推進するもので、規制・制度の特例措置、税制・財政・金融措置の支援を受けられます。

しかし、単に座して支援を受けられるものではありません。自ら考え自ら行動する、地域のやる気や市民の意気込みに基づく



▲苗木を手渡す高岡茂さん（中央）苗木は市内の学校や公共施設など17か所に植樹して大切に育てられます

大阪の裁断機メーカー（株）カオカ会長 高岡茂さんが、市に桜（ソメイヨシノ）の苗木200本を寄贈されました。

桜の苗木200本を寄贈

高岡さんは北阿万筒井出身で、これまで「大日川ダム」完成時に1200本を寄贈されているほか、大阪などに1万本以上の桜の苗木を贈り続けています。

高岡さんは2月17日、親族の高岡貞雄さん（賀集）と共に市役所を訪れて「樹木を大切に育てます」と感謝状を贈りました。

広報コンクール、三部門で入賞



▲1枚写真の部で入選に輝いた12月号

兵庫県広報コンクールで昨年発行した広報紙から12月号の表紙が入選、8月発行の消防操法大会の記事が佳作、3月発行の広報紙が企画賞を受賞しました。広報では、行政情報だけでなく、何気ない話題、皆さまの笑顔や活動など様々なシーンを「お伝えする」情報紙として、制作しています。皆さまに愛される広報を目指し今後も努力いたします。



▲（右から）それぞれ組写真の部で佳作、広報紙の部で企画賞を受賞した広報南あわじ8月号、3月号



▲特区指定授賞式に出席した中田市長（左）

ムへの転換を意欲を持つてすすめてまいります。

また、超高齢社会を迎え「暮らしを持続させるためには、見守りや生活支援を行う新たなシステムづくりが必要であり、交流の活性化や定住促進による仕事づくりに挑戦することが要件となります。市民力、地域力が問われる事業ですので、市民の皆様には積極的な行動をお願いいたします。共にチャンスを生かし淡路島の新しい船出に挑戦してまいります。



▲総合特区指定書